

## 国際化学肥料ニュース (2016年5月)

### 肥料業界の2016年5月動態

- \* ロシア Uralkali 社の1~3月塩化加里生産量が260万トン、前年同期より10万トン少ない。また、需要低迷の関係で、3月末の在庫量が昨年同期より35万トン増えた。
  
- \* ロシア税関の統計データによれば、ロシア1~3月の塩化加里輸出量が308万トン、主な輸出先は中国(113.45万トン)、東南アジア諸国(50.05万トン)、EU(46.67万トン)、南米(36.82万トン)、インド(32.17万トン)、北米(19.03万トン)。
  
- \* GTISの統計データによれば、りん安大国のロシアは今年1~4月のりん安輸出量が大幅減少した。

DAP輸出量が8%減の46.7万トン、主な輸出先はフランス8.4万トン、アメリカ6.8万トン、エストニア6.3万トン、ドイツ3.9万トン、アルゼンチン3万トン、ウルグアイ3万トン、ケニア2.2万トン、トルコ2.7万トン。

MAP輸出量が29%減の36.8万トン、主な輸出先はエストリア11.2万トン、アメリカ9.9万トン、ウクライナ2.4万トン、ルーマニア2.2万トン、ブラジル1.9万トン。
  
- \* 中国の化学肥料内需と輸出が不振で、2016年1~3月の上場尿素メーカーとりん酸肥料メーカーがほぼ全体赤字に転落した。但し、化成肥料大手メーカーが新製品の販売と原料価格の下落により利益が大幅に増加するところがある。たとえば、化成肥料最大手の金正大は1~3月の売上高が11.4%増の46.40億人民元(約7.1億ドル)、純利益が22.21%増の4.05億人民元(約6200万ドル)。2番手の新洋豊も売上高が2.38%増の26.32億人民元(約4億ドル)、純利益が26.30%増の2.17億人民元(約3300万ドル)。3番手の史丹利も純利益が18.31%増の1.51億人民元(約2300万ドル)。
  
- \* 中国税関の統計データによれば、国際化学肥料需要不振の影響を受け、肥料輸出が大幅に減少した。1~4月の化学肥料輸出量が26.7%減の774万トン、輸出金額が価格下落の影響で39.8%減の18.98億ドルしかなかった。昨年同期に比べ、尿素輸出価格(FOB価格、以下同)は270~290ドル/トンから200~225ドル/トンに下落し、DAP価格がさらに460~480ドル/トンから330~380ドル/トンまで急落した。

5月以降も外国買い手の値下げ要請がさらに厳しく、稼働率と雇用を維持するため、現状ではコスト割れの価格で輸出するメーカーが多くなっている。

- \* 国際肥料工業会（IFA）の予測によれば、2016年にナイジェリア、イラン、マレーシアなどに建設している尿素工場が完成し、稼働することによって、世界の尿素生産能力が新たに860万トン増加する。また、2016年にモロッコ（180万トン）とサウジアラビア（140万トン）のりん酸肥料新工場が完成し、世界のりん酸肥料生産能力（P2O5換算）が4720万トンに達する。また、カナダとロシアの新設加里鉱山と精製工場が完成することにより、2016年末の塩化加里生産能力が8700万トンに達する。
  
- \* 中国と主要加里メーカーとの間に行っている2016年塩化加里輸入基本契約の協議はこう着状態に陥っている。中国側がCIF200～220ドル/トン、数量も昨年より100万トン減らすと提示したが、加里メーカー側は受け入れられない模様。中国加里肥料生産能力がすでに600万トンを超え、実生産数量420万トンに達して、自給率も50%以上となった。また、港に在庫している輸入塩化加里も200万トン以上あり、輸入依存度が下がったため、強気の態度を打ち出した。
  
- \* 5月上旬、カナダ Canpotex、Agrium、アメリカ Mosaic とロシア Uralkali 社は担当者の電話会議で中国の2016年塩化加里輸入基本契約について協議した。その内容は①6月末までに中国側と基本契約を合意させ、契約する。②一致でCIF価格250ドル/トンを提示する模様。情報筋によれば、7月末までに2016年塩化加里輸入基本契約が締結するだろうと予測される。
  
- \* インド政府は来年から16地域で個々の農家に対して肥料補助金を直接渡す計画を打ち出した。計画では、農家がまず化学肥料を市場価格で購入してから政府に補助金の申請手続きを行い、補助金はインターネット銀行を通じて農家の口座に振り込む。  
2010年4月からインド政府は統制していた化学肥料の小売価格を開放し、メーカーと業者が自由に価格を設定することを認めた。その代わりに肥料小売店に補助金を与え、化学肥料小売価格を一定範囲に抑えること方法を採用した。今後は補助金が小売店ではなく、農家に直接渡すことにする。
  
- \* インド STC 社が5月12日発表、19日締め切りの尿素輸入入札はその応札内容が判明された。応札数29件、数量315万トンプラス56.4万トン選択可能量。最低応札価格はDrevmoor社のCIF西海岸214.39ドル/トン、CIF東海岸216.89ドル/トンである。中東とイラン産尿素が大部分を占めるほか、ロシアとウクナイラ産尿素の応札もある。  
今回は今年インド側の2回目尿素入札である。4月25日開札の前回は応札数量230万トン、最終契約数量62万トン、最低応札価格CIF東海岸226.92ドル/トン、CIF

西海岸 227.60 ドル/トン。世界的尿素需要不振を反映して、今回の応札数量が大幅に増え、価格がさらに下落した。

- \* インド STC 社が 5 月 19 日終了の尿素入札の購入数量 135 万トンを確認した。その購入先は、中国 40~50 万トン、イラン 33 万トン、中東湾岸諸国 25 万トン、エジプトとアルジェリアの北アフリカ 15 万トン、ロシアとウクライナ 12 万トン。インドがロシアとウクライナから尿素を輸入することが非常に珍しい。

### 大手各社の営業業績

- \* サウジアラビアのりん安メーカー Ma'den 社は 1~3 月の業績を公表した。売上高が 17% 減の 6 億 611 万ドル、粗利が 20% 減の 1 億 3142 万ドル、純利益 4500 万ドルであった。業績悪化の原因は、りん安とアンモニアの価格低下である。昨年同期に比べ、DAP とアンモニア価格が約 30% 下落した。ただし、販売量の増加と生産・販売コストの削減を通して業績の下落幅を縮小させた。
- \* ブラジル Vale 社は 1~3 月の業績を公表した。肥料部門では、燐鉱石販売量 69 万トン、前期 (2015 年 10~12 月期、以下同) より 14.9% 減であった。また、MAP 販売量が 11.4% 減の 25.9 万トン、重過石販売量が 18.6% 減の 9.2 万トン、過石販売量が 17.4% 減の 26.2 万トン、りん酸肥料の売上高が 11.8% 減の 2 億 9000 万ドル。塩化加里販売量が 8.8% 減の 10.4 万トン、売上高が 23.3% 減の 2300 万ドル。窒素肥料販売量が 5.2% 減の 14.6 万トン、売上高が 12.1% 減の 5800 万ドル。肥料部門の総売上高が 20.1% 減の 3 億 8400 万ドルであった。
- \* 5 月 10 日、ドイツ K+S 社は第 1 四半期の業績を公表した。総売上高が 20% 減の 12.5 億ドル、EBITDA (金利・税金・償却前利益) が 26% 減の 3.2 億ドル。加里肥料販売量が 13% 減の 169 万トン、売上高が約 24% 減の 5.24 億ドルであった。
- \* 5 月 9 日、アメリカの加里メーカー Intrepid 社は第 1 四半期の業績を公表した。純利益が前年度同期の 650 万ドル黒字から 1740 万ドルの赤字に転落した。主力製品の加里肥料販売量が 6% 減の 21.8 万トン、平均販売価格が 216 ドル/トン、前年同期より 40% も値下げした。もう 1 本の柱の化成肥料は販売量が 19% 減の 5 万トンに留まり、平均販売価格も 14% 安い 316 ドル/トンであった。

赤字解消するために、Intrepid 社は所有の 2 加里工場のうち、Western factory の生産を停止し、加里生産能力約 42% を削減する計画を打ち出した。

- \* アメリカ Mosaic 社は第 1 四半期の業績を公表し、生産量、販売量、売上高、利益がすべて減少した。売上高が 22%減の 16.7 億ドル、純利益が 13%減の 2 億 5680 万ドル。りん酸肥料生産量 220 万トン、販売量も同じ 220 万トンであったが、DAP 平均販売価格が前年同期の 458 ドル/トンから 355 ドル/トンに下落した。加里肥料生産量が 20%減の 200 万トン、販売量が 25%減の 150 万トン、塩化加里平均販売価格が前年同期の 288 ドル/トンから 207 ドル/トンに急落した。
- \* ロシア PhosAgro 社は 2016 年第 1 四半期の業績を公表した。売上高が 12%増の 561 ルーブルであったが、ドル換算では 7%減の 7.51 億ドル、純利益が 60%増の 3.03 億ドル。化学肥料部門では MAP と DAP は販売量 4%増、売上高 6%減の 2.66 億ドル、化成肥料は販売量 2%増、売上高 11%増の 1.33 億ドル。鉱山部門ではりん鉱石が販売量 22%増、売上高 55%増の 1.05 億ドル。

#### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* インド FACT 社は Karnataka 州にアンモニアと尿素工場を建設する計画を発表した。生産能力は尿素 120 万トン/年で、現在工場建設用地を選択中である。
- \* イスラエル Haifa 社はアメリカジョージア州に樹脂コーティング肥料工場を建設することを決めた。生産能力 2 万トン/年、投資額 1000 万ドルを予定している。
- \* スペインの化学メーカー La Seda De barcelona 社 (LSB 社) はアメリカアーカンソー州 El Dorado 市にアンモニア工場を建設する予定である。アンモニア生産能力 37.5 万トン/年、UAN (尿素硝安溶液) と硝安生産ラインを併設する。
- \* アフリカのタンザニアは、外資を導入して、Lindi 市にアフリカ最大級の化学肥料工場を建設することを発表した。ドイツの Forrostaal 社、デンマークの Topsoe 社、パキスタンの Fauji 社が国営のタンザニア石油開発と合弁の形で 30 億ドルを投資し、近海に産出する天然ガスを原料として、生産能力 130 万トン/年の窒素化学肥料を建設する。

#### その他

- \* 5 月 25 日、アメリカの硫安関連企業はアメリカ商業省とアメリカ国際貿易委員会に中国産硫安の不当廉売と中国政府が硫安輸出に不当補助金を与えることに対してアンチ・ダンピング調査を開始するよう申請した。2015 年中国からアメリカに総額 6825 万ドルの硫安を輸出して、アメリカの硫安業界に損害を与えたという。

中国硫安の不当廉売に関する外国の反応はアメリカが初めての国ではない。2015年10月9日、メキシコ政府は中国産とアメリカ産硫安に対して不当廉売の判定を下し、2015年10月10日からアンチ・ダンピング関税を徴収すると宣告した。

- \* 中国新疆は反政府勢力の爆弾テロ行為を防ぐため、7月1日から新疆地域に硝酸性肥料（硝安、硝酸加里、硝酸ナトリウム、硝酸カルシウム及び硝酸態窒素の入った化成肥料）の生産と販売に政府から発行した専用登録許可書が必要となる。専用登録許可証の有効期間が1年で、更新申請が必要である。また、硝酸性肥料販売店舗の数が制限され、肥料購入者も実名で記録され、毎月新疆地方政府に報告する必要がある。